

第4章 グループインタビュー調査結果

第4章 グループインタビュー調査

1. グループインタビュー調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、広く県民一般の実態を把握するアンケート調査を補完するために、重点課題の中から「子育て支援」および「農村女性への支援」についてより掘り下げた具体的な実態や意見を把握することを目的とし実施した。

(2) 調査の設計と内容

子育て期女性に対するグループインタビュー

調査対象：宮崎県在住で、子育て中の女性6名。

調査実施日時：2000年11月4日（土） 14：30～15：30

調査機関：株式会社 社会調査研究所

調査項目：毎日のスケジュール（子育ての実態）

夫の家事、育児への関わり方

三歳児神話について

子育て支援サービスの利用状況と今後のニーズ 等

農業に従事する女性に対するグループインタビュー

調査対象：宮崎県在住で農業に従事する30～40歳代の女性6名。

調査実施日時：2000年11月4日（土） 20：00～21：30

調査機関：株式会社 社会調査研究所

調査項目：農業への関わり方

家族との関わりについて

家事・育児・介護の状況

自由になるお金や自分名義の財産等について

地域活動について

子どもへの期待・希望

行政に対する意見・要望 等

2. グループインタビュー調査結果

本調査は、男女の家庭や仕事、地域への関わり方を把握することを目的として、グループインタビューの手法にて調査を行ったものである。今回は、子育て期女性グループ（6名）および農業に従事する女性グループ（6名）の2グループを対象としている。

子育て期女性に対するグループインタビュー

A. 対象者の属性

年齢	30歳代	6名
家族構成	夫婦、子ども2名の4人家族	5名
		夫婦、子ども3名の5人家族	1名
子どもの年齢	1歳児未満～未就学児	2名
		未就学児のみ	2名
		未就学児～小学生	2名
就業状況	フルタイム	2名
		パートタイム	1名
		無職	1名
		無職（就学中含む）	2名

B. インタビュー項目

- ・ 毎日のスケジュール（子育ての実態）
- ・ 夫の家事、育児への関わり方
- ・ 三歳児神話について
- ・ 子育て支援サービスの利用状況と今後のニーズ 等

C. 調査結果

毎日のスケジュール

————— 主な発言 —————

（フルタイムの共働き）

- ・ 朝6時半に起き、7時半に家を出る。8時に保育園に子どもを預け、8時半～5時15分まで仕事をする。それから子どもを迎えに行き、ついでに買い物をしてから帰宅。夫が帰宅するのは7時～9時の間。9時～10時の間に子どもを寝かせ、就寝は12時。
- ・ 朝6時～6時半の間に起きる。8時50分～9時5分までと、11時15分～11時30分までは育児時間。6時に子どもを迎えに行く。7時半～8時の間に夫が帰宅する。買い物は1週間分まとめて日曜日に行く。寝るのは夜11時頃。子どもに母乳をあげるため、夜中に2～3回起きる生活。

(パートタイムの共働き)

- 朝5時に起きる。夫は6時に起きて7時前に出勤する。その後子どもが起きて、8時過ぎに保育園に送る。私は9時に家を出て仕事に行く。5時半に帰宅し、洗濯物を取り込んで買い物に行ってから子どもを迎えに行く。子どもは7時にお風呂に入り、7時半にご飯を食べて9時に寝る。

(無職・学生)

- 朝6時半に起床。子どもは8時に幼稚園に行き、それから洗濯等の家事をする。子どもが2時に帰ってくるので、一緒に買い物に行く。夫が帰宅するのは6時半。9時に子どもを寝かせ、私は1時半に寝る。
- 現在学校へ通っている。私は朝5時～5時半の間に起きる。子どもは6時に起きる。8時に子どもを保育園に送り、4時に買い物をして食事の支度をする。6時に保育園に迎えに行く。夫が迎えに行くこともある。8時に子どもが寝たあと私は帳簿をつけて、寝るのは1時頃。
- 私は5時50分に起きる。6時すぎに朝食。子どもは2人共6時前後に起きる。7時前に夫が出勤し、7時20分に小1の息子が学校へ行く。平日の昼間は下の子と一緒にいる。夫は7時半～8時頃帰宅。子どもは先に食事をして9時に寝る。内職をしているので寝るのは遅くて1時半～2時頃。

夫の家事・育児への関わり方

対象者6名のうち、夫が家事・育児に非協力的と答えたのは1名のみで、後の人たちは比較的育児には協力的で、中には家事(掃除、洗濯、洗い物など)についてもやってくれる(やるようにさせた)と話した対象者も2名いた。

家事や育児に非協力的な理由としては、「赤ちゃんのお風呂は、こわくていれられない」、「子どもと接する時間が少なく、子どもがなつかない」、「自分(夫)が洗濯物を干す、布団を取り込むなど人目に付くことをするのは、妻の立場が悪くなると思っている、みっともないと思っている」などがあげられた。

中には、育児は夫にもどんどん協力してほしいと思っているが、自分の下着などは干してもらいたくないと発言した対象者もいた。

————— 主な発言 —————

(家事・育児に協力的)

- お風呂は、子どもと夫と一緒に入るようにしている。3人とも、首がすわらない時期に私がお風呂に入れたことがない。一番下の子も4年間の中で私が一緒に入ったことは1回くらい。月末になると私は夫の仕事の手伝いで追われてしまうので、夫に洗濯物を畳んでもらう。アパートなので、周囲の目を気にして干すことには抵抗があるようだ。団地には年輩の人が多く、夫は私の立場がなくなるのではと言う。ゴミ出しも欠かさずしてもらっている。どこかに行く時は家族みんなで動くが、子どもは私より夫にくっついていて、夕食後の団らんの時間には3人とも夫の方にじゃれている。夫が帰ってくると子どもは私には全然寄ってこない。(無職)
- 夕食後にどっと家族一度にお風呂に入る。上がると、私は下の子に母乳を飲ませて眠らせている間に、夫が片づけ物をしてくれる。休みの日も夫は上の子を病院や図書館に連れて行ってくれる。非常に協力的。夫は料理が好きで得意なので、休みの日などたまに料理をしてくれる。1人目の時はあまりしてくれず、「なぜ私だけが」と不満に思ったので、言うようにした。口にしないと男性はわからない。そうしたら結構協力して

くれるようになった。(フルタイム)

(育児には協力的)

- ・ 夫は家事をしてくれない。子育てについては、子どもが赤ちゃんの頃は怖がっていたのでお風呂は私が入れていたが、今子どもが5歳と6歳で手がかからなくなり、夫は休みの日など子どもの相手をよくしてくれる。子育てにはすごく協力的。今は子どもをお風呂に入れてくれるようになった。(無職)
- ・ 夫は家事にはノータッチ。休みの日や仕事から早く帰って来た時は、子どもとおもいきり遊んだり、お風呂と一緒に入るくらい。(パートタイム)
- ・ 子育ては自分の仕事ではないと夫が抵抗を示すことはないが、ゴミ出しや私の物の洗濯物を出したりするのは勘弁してくれと言う。(無職)

(家事には非協力的)

- ・ 夫は家事をあまりしない。たまにご飯を作ってくれるが、やりっぱなし。片付けはしない。掃除、洗濯はしない。よっぽどたまっている時にぶつくさ言いながらやってくれる。基本的に、家事はしたくないという感じ。(フルタイム)
- ・ 日曜日の昼間、私が買い物に行ったときに突然すごい雨が降り出した。布団を干していたので、夫が入れてくれているだろうと思って帰ったら、布団はびしょりで、夫は横になってビールを飲んでいて。大喧嘩になり、夫は雨が降っていることに気が付かなかったと言ったが、実は布団を入れているところを見られるのが恥ずかしかったらしい。プライドが許さないようだ。(無職)
- ・ 最初は夫に家事をしてほしいと思ったが、もうあきらめた。かえって、男の子が1人いるみたいな感じ。(パートタイム)

(家事・育児に非協力的)

- ・ 夫は子どもと接する時間が少ない分、子どもがなつかない。夫は子どもを結構厳しく怒る。機嫌がいい時に「お風呂に入るからおいで」と言っても、子どもは「ママがいい」と言うから結局「じゃあ俺はもう何もしない」という感じ。子どもたちは根本的にお父さんは怖いものだと思っている。休みの日はお父さんとかいう遊びができるんだとか、お父さんと遊んでも楽しいとか、お父さんには良い面もあるとわかってほしい。また、夫はつきあっているときから「男は台所に立つもんじゃない」と言っていた。若い頃は「男らしい」と思っていたが、今はもう後悔している。(無職)

(夫の家事・子育て参画を促す方策)

- ・ 私は、1人目の時は家事も子育ても1人でやっている自分に満足していた。でも「これをしてくれたらいいのに」と夫に不満はあった。私は仕事を休んでいたため、夫もそれが当たり前と思っていたらしい。仕事に復帰する前からこれではいけないと思い、不満をだんだん口に出した。最初は保育園の送り迎えも私がしていたが、朝洗濯物を干していく時間がかせげるので、「送り迎えして」と言ったら「行く行く」と言った。行きたかったみたい。(フルタイム)
- ・ 夫が積極的に家事をやってくれたら助かる。自分が家事をしていて、夫がソファーに座ってテレビでも見ていると不満に思う。その不満を口には出すが、意地の張り合いになる。上手に言って、やってもらうようにしないといけないと感じる。言うだけでは無理。(フルタイム)

(その他)

- ・ 夫は食器洗いはダメ。洗濯物もしてくれるけれど、女の人のようにパンと叩いて干すわけではない。子どものズボンも両端と真ん中を止めてほしいが片方だけしか止めないのでやめてほしい。あとからイライラする。やり直すと悪い気がする。(無職)

三歳児神話について

できるなら3歳までは自分で育てたかった(たい)との発言が多く、実際に子どもを預けている対象者からは、泣いている子どもをおいて仕事に行くつらさ、また育児のためにせっかく復帰した仕事もフルにできないもどかしさについて語られた。

————— 主な発言 —————

(3歳までは一緒に)

- ・ 最初の子と2人目までは3歳を目安になるべく一緒にいた。仕事復帰を決めた後に、夫が3人目をほしいと言った。2~3歳までは自分で育てたかったが、3人目は3ヶ月で保育園に入れた。最初の1週間くらいはかわいそうだったが、園の保育に従って育てて良かったと思う。今年の春、仕事を辞めた。自分で手をかけたかった3年間を保育園に入れたので、小学校に上がるまでの3年間でスキンシップを取ることができればよいと考えている。基本的に2~3歳までは自分で手をかけたい。子どもが入院しても、日中は母に見てもらって私は仕事に行き、夜は私が病院に泊まることもあった。3歳までの時期は一番病気がかかったりする。3番目の子は「自分が苦しい時にお母さんは仕事に行った」と思っているのではということが心の中にある。それをこの3年間で取り返したい。(無職)
- ・ できれば、子どもは3歳までは手元において、それから幼稚園に出したい。時間になったらお迎えに行くような感じがよいと思っている。(パートタイム)
- ・ 仕事に出ると、子どもが急な発熱をした時に心配。人に預けていても気になって、自分の両親でも「どうしているかな」と気になる。それを考えると、気をつけてお金の管理をしていけば働かない方がよいのではと思う。夫は、子どもが小学校低学年までは、私に家にいてほしいと言う。できれば子どもが低学年までは家にいようと思う。(無職)

(仕事と育児の葛藤あり)

- ・ 完全に母乳だけで子どもを育てている。職場に話して、理解してもらえているので、保育園に通うことができている。預ける前までは、首がすわったら保育園に預けても大丈夫だろうという感じだったが、母乳をあけて泣いている状態の時に自分だけ仕事に行くのは「何のために仕事をしているのか」と思うことがある。仕事の昼休みの後、ちょっと働いたらすぐに授乳の時間。もっと仕事に専念したいが、これ以上任されても大変。やはり1年くらいは休めば良かったかなという気持ちがなくもない。育児休暇を取らなかった理由は、上の子をずっと家にいさせるのも良くないし、その間別の幼稚園に入れるわけにもいかなかったため。職場で、早めに出てきてもらえるとありがたいという雰囲気もあった。それに自分も応えなかった。(フルタイム)

子育て支援サービスの利用について

小児科に併設されている病児保育の利用者から、いざというときに心強い、という発言があっ

たが、その小児科にかかっている子どもが優先されるため、他医院がかかりつけになっている者からは、預かってもらえなかった経験談が出、市内に3カ所しかない病児保育のさらなる充実が求められた。

専業主婦の者からは、自分が歯医者に行くときに子どもを1時間でも預かってくれるところがほしい、との発言があった。現在は近所で親しくしている人に助けてもらっているとのこと。

職場に女性が多いなど、非常に理解のある職場に勤めている対象者もあり、祝日に仕事のある対象者からは、保育園で延長保育など助かっているが祝日まではカバーしてもらえないという不満、また保育料（保育園、幼稚園共に）の負担感が強いという発言があった。

さらに、学童保育の時間を5時までから6時くらいまで延長してもらえたら、もう少し安心して働けるとの要望があった。

————— 主な発言 —————

（病気の時の利用サービス）

- ・ 子どもが病気の時は、小児科の中に保育園があるので、そこに預ける。朝9時～夕方6時まで。安心して預けられる。だが、その小児科で診察してもらって、そこで薬を出してもらおう子どもでないと預かってもらえない。保育園のある小児科は市に3カ所くらいしかないと聞いている。（パートタイム）
- ・ 他の小児科にかかっている子は、小児科の保育園が空いていれば入れるが、その小児科にかかっている子が優先。病院が何かあった時にすぐに処置してくれるから心強いと聞いたことがある。子どもに熱がある時は勤務先に電話をもらって、私を実家に電話をかけて母に行ってもらおうことが99%。夫は最近自分で仕事を始めたので、外に出ることが多く、連絡がついても抜けられない場合が多い。（無職）

（今後の希望・ニーズ）

- ・ 病児でも預かってくれる所が身近にあれば利用しやすいと思う。（無職）
- ・ 今の保育園は朝7時半から夜8時半まで預かってもらえる。祝日も仕事の場合があるが、祝日は保育園はやってないので、そこをクリアしてくれるともっとよい。今のところ、休日保育で、ある程度は大丈夫。（フルタイム）
- ・ 保育料を下げしてほしい。何のために働いているのかと思う。（フルタイム）
- ・ 3人子どもを保育園に入れると、所得が低い世帯は一番下の子が無料で、真ん中の子は半額になる。今子どもは2人だが、3人の時の方が安い。2人とも半額にできればよいと思う。（無職）
- ・ 学校に上がるまでもらえる手当を、小学校の低学年くらいまでもらえると生活も助かる。（フルタイム）
- ・ 小学校の学童保育は5時まで預かってくれるが、それを6時くらいまでにしてくれると働きやすい。（フルタイム）
- ・ 自分が歯医者や病院に行くときに下の子がいると行けない。そういう時に1時間でも子どもをみってくれる所があればいい。今は友達にみてもらったりする。（無職）

その他

出産祝い金として3人目の人に20万円もらえるという町の話をうらやましいという発言があった。他の人も30万円くらい（出産費用くらい）お祝いがもらえるのなら、もう一人産んでもいいなと思うとの意見が聞かれた。

——— 主な発言 ———

- ・ 他県に住む友人が、「3人目を生んだら出産祝い金として20万もらえる」と言っていた。そういうのがあればもうちょっと頑張るのと思った。乳幼児手当を別にもらえる。20万もらえるのは大きい。子どもを2人産む人は多いが、3人産む人はそう多くはない。人口も少なくなっているし、生んで下さいという意味でちょっと額を上げているらしい。(無職)
- ・ 子どもをあと1人はほしいが、出産費用もかかり、子育てしていく上でもお金がかかるので、2人でやめておこうと思っている。(パートタイム)

農業に従事する女性に対するグループインタビュー

A．対象者の属性

年齢	30～40歳代	6名
家族構成	夫婦、子ども2名の4人家族	1名
		夫婦、子ども3名の5人家族	1名
		夫婦、子ども3名の5人家族（同敷地内に母在住）	1名
		夫婦、子ども3名の5人家族（同敷地内に両親在住）	1名
		夫婦、両親、子ども2名の6人家族	1名
		夫婦、両親、子ども3名の7人家族	1名
子どもの年齢	未就学児～高校生	1名
		小学生のみ	2名
		中学生～高校生	2名
		高校生～大学生	1名
農作物	きゅうり、ピーマン、メロン、すいか等	

B．インタビュー項目

- ・農業への関わり方
- ・家族との関わりについて
- ・家事・育児・介護の状況
- ・自由になるお金や自分名義の財産等について
- ・地域活動について
- ・子どもへの期待・希望
- ・行政に対する意見・要望 等

C．調査結果

農業への関わり方（仕事内容や家族との分担、経営状況等）

ほとんどの家庭で子どもたちは農業に関わっておらず、子どもが後を継ぐ予定の対象者は1名だけであった。親の代は、手伝う程度だったり、それぞれ独立して経営していたりと様々だが、今回集まった家では農業経営の主導権は既に自分たちの代になっているところが多かった。

農業への関わりについては、夫とまったく同じような仕事をしているが、最終的な決定等はすべて夫のところであることが多い。ただし、農業への知識や情熱などは夫にはかなわないとのことで、別に不満をもっている様子は見られなかった。

無農薬や産直野菜など、新しい農業スタイルへの取り組みの意欲などは、現在の厳しい経営状況から余裕がないというのが本音で、新しい知識を吸収して夫の方針に意見を言えるような状況ではなく、成功するという保証のないことに投資する余裕はないとのことだった。

もともと農家の出身の人でも、農家以外から嫁いできた人でも、現状の農業経営についての不

満などに違いはないようだ。

——— 主な発言 ———

(家族との分担)

- ・ 離れた所に父母がいて、元ハウスをしていた。体を悪くしてやめたが、手伝い程度に来てくれる。
- ・ 両親と一緒に農業をしている。手伝ってもらっている。
- ・ 子どもたちは畑をほとんど手伝わないが、手伝っている家もある。後継者は割といる。でも、私たちの世代の子どもたちはどうなるかわからない。
- ・ 仕事のことは、両親と夫の3人だけで決める。嫁の私が発言しても通らない。帳簿は私がつけている。

(農作業の実態)

- ・ 結婚前は農業がどんなものか知らなかった。「今は手先だけの仕事だからずいぶん楽になった」と言うが大嘘。「何この忙しさは」と思う。
- ・ 朝起きる時間はお日様と共に。今の季節なら6時前。5時半。5時半から6時の間。などの声あり。仕事に行くのは8時すぎ頃。お昼ご飯に帰って、また仕事に出て夕方まで仕事。その時期の仕事内容によって早く終わりそうなら先に帰れるし、忙しかったら帰れない。夫婦で一緒に帰ることもあれば一足先に帰ってご飯の支度をすることもある。
- ・ 親の世代が何時から何時まで仕事と決めてくれると動きやすい。顔をうかがいながら、今日は作業を切り上げて帰ってもいいだろうかと思う。苦労している。農家は時間に融通がきくとは言われているが。
- ・ 仕事はほとんど男と同じ内容。
- ・ 結婚した当時はパニック状態。毎日が辛かった。働くだけ働かされた。お産で実家に戻ったら、もう帰りたくなかった。
- ・ 嫁に来た時はきゅうりを毎日23時まで箱詰めした。それからご飯を食べて片づけて深夜0時頃市場へ行って、帰って風呂に入って、朝は早くから起きる生活だった。
- ・ 元旦から仕事。大掃除しろと言われても暇がない。

(休みについて)

- ・ 農業は丸1日休みが取れるわけではない。収穫が始まったら1日も休めない。
- ・ 子どもの参観日に半日だけ仕事を休むくらい。
- ・ 学校が休みが2日になって大変。どこの子は今日は家族で遊びに行ったと子ども情報で聞く。農家はそういうことはない。作物がある間は毎日仕事をしなければならない。
- ・ 農業の仕事内容がわかってくると休めないなと自分でわかってくる。
- ・ 夏場が農閑期。

(経営状態)

- ・ 今、農業は収入が良くないので農業を継がせても生活が成り立たない。二家族養うのに今の面積でやっていると思ったら無理。
- ・ 何を作るとか、売る経路などは自分たちの代で決める。父たちが作っていたのを受け継いでやっている。
- ・ 生活に(時間的、金銭的)ゆとりがない限り、新しいことに取り組めない。
- ・ 収入が上がれば仕事も軽減できるが、面積を広げない限り収入は増えない。

(無農薬・新たな作物への取り組みについて)

- ・ 本当の無農薬の野菜は絶対にできない。本当に無農薬の野菜で、あれだけ虫が食ったのを見たら絶対に買わないと思う。
- ・ 趣味で無農薬を作るならいいが、それで生活は成り立たない。
- ・ 曲がったきゅうりとまっすぐなきゅうりでは種類が違うと思っている人がいる。農薬をかけてまっすぐになると思っている。結局曲がるとB品。そういうのをなるべく出さないように作らないと、農家は儲からない。何でも見た目が勝負。
- ・ 確実に収入が取れるなら新しい作物を一生懸命作る。施設費をつぎ込んで収入が取れる保証はない。今作っている物のほうが安定度はある。
- ・ 余剰品で加工食品を作るくらいならハウスで仕事をした方がまだいい。余剰品で加工食品を作るには時間がない。
- ・ 後継者がいて、自分の時間があるなら、余剰品で加工食品を作ることもできる。年輩の人にしかできない。
- ・ 1年分の貯蓄があれば、新しい作物を作って失敗してもどうにかなる。実際にはそのような蓄えはない。

家族との関わりについて

農家の女性たち自身、「農家は封建的」との意識を強くもっており、自分の娘は絶対に農家に嫁に行かせたくはないと考えている。農家は、365日休みがなく、舅・姑の目があるため外出も自由にはできないとのことであった。

家事に対しては、夫が協力的な家庭もみられたが、やはり親の目が気になるという。完全な同居でなくても近所や敷地内に親がいるため気は休まらず、親以外にも隣近所が親戚の場合が多く、衆人環視のようで、自由がないとのことであった。

農家ということでなかなか休みがなく、子どもの参観日(半日程度)くらいが、休む機会とのこと。また、学校5日制になり、休日に子どもは友だちが親と遊びに行っているのをうらやましく思っているが、子どもがかわいそうと感じている対象者が多い。

農家の女性問題は、夫との関係よりも、親、特に姑との問題が大きいようだ。自分が姑の立場になったときには、同じようなことは絶対にしたくないと考えており、昔はもっと大変だったんだろう、と思ってあきらめている様子が見え、次の世代になれば変わる(変える)との思いが感じられた。

————— 主な発言 —————

(農家の実態)

- ・ 農家は親と一緒に住むと365日同じ時間に起きなければならない。今日は暇だからゆっくり寝られるという日がない。
- ・ サラリーマンの家庭は日曜日10時くらいに起きると聞くと「いいね」と思う。たまに旅行に行くと、ゆっくり寝られると思っても6時頃目が覚めてしまう。もう癖になっている。
- ・ 農家は封建的などころがある。朝日が上がって沈むまで働く。ゆっくりお茶を飲む暇もない。親と同居してバタバタしている。自分の子もそっこのけで仕事と家事。親と交代で休みが取れて、育児の面も気兼ねがないと農家もよいのだが。さらに、収入がよければ娘も嫁に出してもいいと思う。

(親との関係)

- ・ 親と家が離れただけで全然違う。私が嫁に来た頃は横になってテレビを見られなかった。うたた寝もできない。
- ・ 親と同居していると買い物もままならない。
- ・ 私が外出する時は行き先を報告するが、親はどこへ行くとも何も言わないで1日いない時がある。こっちが「どこへ行く」と言わなかったらすごく言われる。男が外出する場合はつき合いだから仕方がないと親は言う。
- ・ 同居の場合は、私がいないと「どこへ行ったか知らないけれど」とブツブツ言われる。何も考えずに遊べることはない。
- ・ 親と同居していると監視されている感じ。
- ・ 同居の苦労がなければ農家もいい。仕事自体は慣れればどうにかなる。苦労はあるけれど、それが自分に返ってくるので、そういう点では夫婦だけであつたら頑張れる。
- ・ 農村の女性問題は嫁姑問題。封建的な慣習。
- ・ 嫁姑問題は、昔はもっとひどかったと思う。今はあきらめ。要領が良くなった。
- ・ 親が一番大変。夫婦だけなら気兼ねがなくて、言いたいことも言える。
- ・ 親がまだ70代になっていないので、介護までは考えていない。両親はどちらかが倒れたらいけないと思い、きちんと父に洗濯をさせている。

家事・育児・介護の状況

家事・育児・介護については、女性、特に「嫁」が行うのが当たり前であり、農作業も加わって過剰な負担がかかっている現状が垣間見えた。

特に育児では、農作業に追われて小さい頃から保育園に預け、参観日ぐらいしか子どもと触れ合う時間がなく、子どもがかわいそうと多くの対象者が感じていた。

また、将来を見据えて、介護予防として親にできることはしてもらおうようにし、ぼけ防止のためにも仕事を手伝ってもらっている対象者もいる。たとえ親の具合が悪くなくても、仕事量は減らず、仕事をやめると即収入がなくなるので、不安要素とのことであった。

- 主な発言 -

(家族の家事への参加状況)

- ・ 実家の父は家事を一切しない。母がご飯をちゃんと並べないと食べない。だから、息子にはずっと家事をさせてきた。
- ・ 夕方、両親が食事を待っているから、農作業が忙しくても私は帰る。帰らないわけにいかない。
- ・ 農家の嫁が一番忙しい。男と同じくらい仕事をして、それから帰って子どもの世話に食事の世話に親の世話。
- ・ 夫と一緒に帰って食事を作ることは考えられない。親の目がある。男に炊事をさせて、という感じ。農家は台所に男を立ててはいけない。
- ・ ちょっとどこかへ行く時にご飯の支度をしていかなければならない。
- ・ 私がいないうち、夫が両親にご飯を作ることはない。親がいなければ夫は食事の支度をすると思うが。
- ・ 夫が料理をできないと私が病気になった時に困る。

(家族の育児への参加状況)

- ・ 保育園の送り迎えはだいたい女性が行く。
- ・ 保育園の送り迎えに夫が行くのは、自分が行かない時くらい。親は行かなかった。
- ・ お産のあと実家から帰ったら、すぐ当たり前に働かされた。赤ちゃんは寝かせっぱなし。町の人にはとても想像できない状況だろう。畑に通勤しているので、子どもが風邪をひいた時は車のワゴンの後ろに布団を敷いてそこに寝かせた。
- ・ 頼めば親は子育てを手伝ってくれる。子どもが小さいうちは親がいてくれるといい。
- ・ 子どもは3歳までは親が育てるなんて言っていたら、農家の仕事はできない。とんでもない。
- ・ 農家の男性は育児には無関心。仕事と自分の趣味ばかり。
- ・ 保育所に預けるのは私たちの希望ではない。親が早く保育所に預けると言う。子どもはしがみついて保育所に行くのを嫌がった。
- ・ 男女両方の子育てが浸透してきたんじゃないか。
- ・ 夫婦そろって2人で入学式などに行く人もたまにはいるけれど、だいたい片方。ハウスがあると2人では出かけられない。なぜわざわざ2人で出かけるのと言われる。私たちの代から切り替えないと変わらない。
- ・ 子どもが小さいころの面倒をみるのは、母親だと言われていた。夫は「小さい頃はお前。小学校に入ったら俺がする」という感じ。参観日だけは行きたがらない。参観日は女性が多いので。
- ・ 忙しいときは参観日もなかなか行かない。参観日くらい行かないと子どもがかわいそう。子どもと触れ合う時間はないから。
- ・ 父母がいたので、子どもの具合が悪いと病院へ行って見てもらっていた。やはり、小さい子どもがいる時は手を取られるので、今と同じペースで仕事はできなかった。小学校に入るまでは辛い。結局保育園に頼るしかない。
- ・ 農家は子どもが小さい時の子育てが大変。

(家族の介護について)

- ・ 親の体が悪くなった時はどうやって看るかという問題もある。親の面倒を見ても仕事のサイクルは同じようにある。利用しやすい病院もなかなかない。収入がないと、保険だけではやっていられない。痴呆になると施設がない。
- ・ 親に介護が必要になっても、仕事を辞めたら収入がない。
- ・ 農業はボケ防止になる。年寄りに何もさせないと足腰が弱ってかえって良くない。

自由になるお金や自分名義の財産について

青色申告になってからは給料制になっているが、ほとんどが生活費と子どもの養育費に消えていくそうで、農家の女性が自由に使えるお金はない。また貯金ができる余裕はないとのことであった。

また、経営自体は自分たちへ移譲しているが、土地の名義はみな親のものとのことである。もし相続するとしても贈与税がかかるので、自分名義としてほしいとは特に思わないとの声が聞かれた。子どもには残してやりたいが、相続の際、夫の兄弟姉妹との関係も考慮しなければならず、難しい問題となっている様子であった。

————— 主な発言 —————

(収入について)

- ・ 収入は夫の名義で入ってくる。
- ・ 帳簿では給料制だが、もらったお金が自分のお小遣いになるとは限らない。家計費に全部行く。自分が自由に使えるお金はあまりない。子どもを優先し、その後になる。
- ・ 確定申告が青色申告になったので、通帳はある。白色申告の時、通帳はなかった。
- ・ 貯金ができない。子どもが育つにつれ、余分なお金ができない。ここ数年が厳しい。
- ・ 給料は引き落としで、3人分の通帳に振り込むようになっている。そのカードは私が持っている。ただし、引き落とされたという形式だけのことで、実際に自分のお金にはならない。
- ・ 10～20年前はへそくりができるような経済状況だったらしいが、今は借金の支払いができない状態にある。
- ・ 知り合いは給料制にしてから通帳を作った。それまでは全部夫名義で、通帳がなかった。家庭菜園で作った物売った代金が通帳に振り込まれるのはうれしいと言っていた。私も自分の通帳は一応持っている。給料という形で振り込むから通帳はあるけれど、それは全部生活費にまわる。
- ・ 収入があれば親が何か言ってもまあいいわと思う。お金はギリギリで、親にはいろいろ言われる。経済的余裕も気持ちの余裕もない。うっぴんを晴らす場がない。

(土地の名義について)

- ・ 土地の名義は親。
- ・ 土地は自分でもらえなくてもいいけれど、子どもにはやってほしい。
- ・ 親の土地が畑しかない場合はみんなほしがらないけれど、宅地があると問題が起こる。今、農地には家を建てられない。誰もほしがらない。
- ・ 夫の兄弟の財産分与もある。兄弟がいたら分けないといけない。

地域活動について

地域密着型の仕事とはいえ、地域での活動はさほど行われていない様子であった。

農協の婦人部には魅力を感じないので参加していない、参加している対象者もただ入っているだけというケースが多く聞かれた。親(姑)たちの集まりのようなものなので、若い世代は離れてしまっているとの話である。

近所づきあいは、ありそうでないのが現状であり、葬式などで助け合うことはあっても、特に普段からの助け合いのようなことは発生していない。自分が暇でも隣は忙しいだろうと思うと、声がかげづらく、また、起業グループ活動をする余裕(暇)はないようだ。

ただ、地域の活動として、バレーボールに行くことを唯一の楽しみとしている対象者が多かった。

————— 主な発言 —————

(農協の活動)

- ・ 農協婦人部は入っているだけ。
- ・ 農協の婦人部はあるけれど若い人は離れている。60代の世界。

(近所づきあい)

- ・ 隣近所の人と話す機会もない。よっぽど親密な関係でなければ。
- ・ 仕事の段取りがついて自分が暇な時も、他の人は忙しいだろうなと思って、「どこか行こう」と言いたいけれど言えない。

(スポーツ)

- ・ 普段の楽しみはバレー。
- ・ 地区でバレーボールをしている。

(農村女性による起業グループ活動について)

- ・ 一軒の作が多いから、ちょっと集まって活動することはできない。皆が同じ仕事をしているわけではない。同じ仕事なら自分が暇な時は隣も暇かなと思うが。
- ・ 農村の女性を対象に、女性の主体的な農業経営への関わりやグループの販売活動等への指導・支援は役所の人が積極的なだけで、農業に従事する女性はそのような暇はない。
- ・ 山間部は小人数で集まって活動ができる。
- ・ 婦人部など地域によって活動が活発な所もある。
- ・ この地区では、ハウス面積が多いのでちょっと集まって活動することができない。
- ・ 毎週日曜日が休みとなれば何か活動できるが、休みがない。また、うちの地区だけでまとまって、どこか販路を見つけるといえることもできるかもしれないが、そこまではいかない。

子どもへの期待・希望

子どもに農業を継がせようと積極的に考えている対象者はおらず、特に娘を農家に嫁がせたくないとの思いが強い。農業を継がせるとなったら、やはり「長男」と感じているようだが、中には、長男も墓さえ継いでくれれば農業を継がせようとは思わないと考える対象者もいた。

また、今の作付け面積のままでは、自分たちと息子夫婦の分の収入を得るのは無理と感じており、いずれにせよ、子ども次第であるとの答えが多かった。

- 主な発言 -

(子どもの進路・継承問題)

- ・ 父と母は、娘が農家に行くと言ったら反対する。それなのに自分の家に嫁は来いと言うから矛盾している。嫁と娘は別格。私は農業自体を好きになれなかった。子どもが生まれて、絶対に農家はさせたくないと思った。
- ・ 自分の子を農家に継がせようと思わない。嫁いだ所の姉さんや妹が農家に嫁いでいるところは少ない。
- ・ 子どもの進路は本人任せ。本人がどうしても農業をすれば何も言わないつもり。
- ・ 娘に農業をさせようとは思わない。長男が継ぐべき。
- ・ 息子はいずれ墓の面倒は見るのだから、家の仕事を継がなくてもいい。
- ・ 子どもが農業をしたらいくつになっても手伝わなければならない。
- ・ 無理強いしてまで子どもに農家を継がせようと思わない。それまでハウスが建っているかわからない。学校

を卒業した後に継がれても給料を払えないから、してもらわない方がいい。

- ・ 今は年寄りも孫に農業をさせるとは言わない。孫には好きなことをさせて、時を経て農業をしようかなと言えさせたいようだ。

行政に対する意見・要望

農家の経営難から、輸入野菜の自由化をやめてほしいとの要望が強かった。このままではほんとうに経営がなりたたず、作物を販売するこの辺りの商店もみな不況になるとの声が聞かれた。

また、最近の流れでインターネットの利用には興味を示す者もあり、JAの青年部で講習会があったとのことだったが、女性向けの講習会もやってほしいとの意見が聞かれた。

————— 主な発言 —————

(輸入自由化について)

- ・ 輸入自由化はやめて欲しい。
- ・ 輸入野菜をやめてほしい。野菜が安いと農家がつぶれる。日本でできる野菜はなくなる。

(パソコンについて)

- ・ パソコンをほしくなくても買うお金をどこから出すかが問題。仕事で目を使って、パソコンでも目を使うのでは大変。
- ・ 今、パソコンを使っている。夢中。しかし、使いこなせない。
- ・ ホームページを作って発信したい。使いこなしてからでいい。
- ・ JAの男性の青年部ではパソコンの研修会が1回あった。女性にもそういうのがあれば面白いと思う。
- ・ パソコンに興味はあるけれど使いこなせない。10年前のパソコンがあるが、置いておいたらやり方を忘れた。機械も機種も変わって、今は全然違う。